

世田谷村日記

石山修武

七月十九日

十時前研究室。梅雨明けて、暑い。研究室で旭ガラス伊勢谷氏と会い、北京Pのカーテンウォールの相談。伊勢谷氏の情報は流石にプロフェッショナル。台北の李祖原と連絡、大まかな方針を立てる。昨夜、北京からTELが入り、日本はナショナルホリデイかと、休むのはどうか、みたいな感じだったが、私だって夜は休みたい。十二時大学院入試採点。十六時ひろしまハウス・プランペン、設計図書が出来て、チエック。院生も良くやってくれた。エネルギーがあれば装飾のドロ잉を中心に展覧会用のプレゼンをやってみたら良いのと思うが、彼等の自主性に任せよう。十七時立山アルミ来室。赤坂先生より日本のカーテンウォールメーカーの情報入る。北京より設計図書CD届く。十九時過近江屋。二十二時半修了。二十三時半世田谷村に戻る。

七月二十日

午前中私用で休む。十五時大学雑用。十九時半修了。その後も雑用、二十二時過世田谷村に戻る。

七月二十一日

暑い。中国、ロシア、他の国際関係の事が少し身に即して解ってくる。小泉政権のあやうさがわかる。郵政民営化の前に劣勢に立たされている外交をキチンとやって欲しい。国会は解散に向けて走り出してしまった。来週はMrKの一団が香港からやってく

る。その対応で今週は頭を使い廻しているが、一つの独立峰に登るには視野をもう少し固めておく必要がある。又、独立峰を連峰に展開してゆくこちらの構想力も必須だ。アンナプルナ連峰登山だ。このプロジェクトは、体力が持ち切れると良いが、力を尽くしてみる。

十二時三〇分過教室会議その他十五時三〇分迄。八月二日から広島市でのひろしまハウス展覧会オペレーション。一七時研究室発、東大へ。今夕は藤森照信のレクチャーである。一八時東大藤森レクチャー。興味深いレクチャーであった。平板な歴史主義に陥る事のない、物と人間の葛藤の現場のリアリティーが底にあった。コンクリート打ち放しに焦点を合わせて、オーギュスト・ペレーとアントニー・レーモンド、それを継承した丹下健三という流れを浮き上がらせた。その後の酒席での鈴木博之、藤森照信、中川武、松村秀一、難波和彦の話は更に面白かった。歴史は流れてはない、時間の細部の積み重なりだ。二十二時半過世田谷村に戻る。